

藩政日記を

近世編専門部会による藩政史料の調査合宿

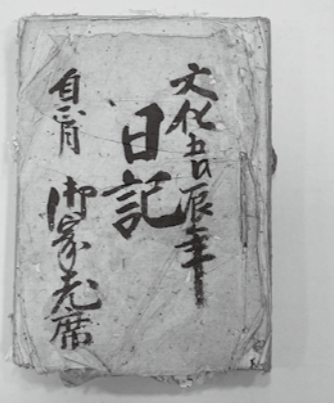
調査する

市では、令和元年に市制20年を迎え丹波篠山市としてスタートしたことを契機に、地域が歩んできた歴史を記録する「丹波篠山市史編さん事業」を始めました。膨大な量の資料をひもとき、市史を刊行するため日々、調査・研究を行っています。

8月8日・9日には中央図書館で藩政日記の調査合宿が行われました。丹波篠山市史編さん委員会の中でも近世を担当しているグループ「近世編専門部会」が中心となり、大学で歴史学などを専攻する8人の大学生の協力を得て調査しました。その様子を紹介します。

問い合わせ 丹波篠山市史編さん室(中央図書館) ☎590・1301

藩政日記とは



文化五戊辰年(1808年)日記 自正月 御家老席

青山歴史村(北新町)には、旧藩主の青山家が所有していた膨大な史料が保管されていますが、そのうち、藩の家老や右筆、郡奉行といった職務にある武士により、日々記録された公務記録が「藩政日記」です。

江戸時代前期、青山家が小諸藩主(現長野県小諸市)だった頃に始まり、国替いで浜松・亀山を経て篠山に移り幕末を迎えるまでの約200年におよぶ記録です。国許の記録だけでなく、江戸・京都の藩邸で書かれた日記も含まれています。近世の丹波篠山を知るうえで中核となる重要な史料群です。

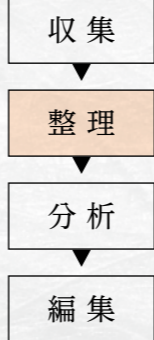
古文書調査の作業って何をやるの？



今回の作業は、市史編さんの工程の中で「整理」にあたります。この作業では、はけを使って史料のごみやほこりを取り除き、その文書が、いつ・どこで・誰が・どのような立場で記録したものなのかを読み解きます。その後、写真をとり、文書のとじ方や表紙の紙質といった形状の特徴とともに「目録カード」に記入します。

虫食いなどで状態が悪く、簡単には開くことができない文書もありますが、状態の良いものについては、丁寧にクリーニングし、日々の天候記録の有無だけでなく、内容に踏み込んで調査する場合があります。

市史ができるまで



「研究者」と「市民」の力が重なり歴史はひもとかれる



市史編さん事業には、地域の歴史に触れることで、多くの人に「ふるさと丹波篠山」に誇りと愛着を感じてほしいという願いが込められています。市史の質を担保するには研究者の力が、そしてそこに熱量を与えるには市民の皆さんの協力が不可欠なのです。

8月9日の午後からは、市民の皆さんで結成された「地域資料整理サポーター」も調査に参加し、合宿は一気に20人を超える大調査隊になりました。



今回の調査で、藩政日記のおよそ4分の1に当たる178点について目録を作成することができました。目録の作成は引き続き行われ、市史編さんに向けて、研究者の詳細な分析が始まります。

資料・情報提供のお願い

古文書・絵図・地図のほか、古い日記や写真なども重要な資料です。「これも資料になるのでは?」と思われるものがあれば、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

資料の情報をお待ちしています。

【お問い合わせ】

丹波篠山市史編さん室(中央図書館) ☎590-1301



今後資料の展示や調査報告会などを開催する予定です。詳細が決まりましたら、広報紙などでお知らせします。ぜひご参加ください。

市史編さんの取り組み

市史編さんは、「丹波篠山市史編さん委員会」のもと各委員会や専門部会に分かれ、活動しています。取り組みについて、丹波篠山市史編さん委員長の今井進さんにお話を伺いました。

100年活用できる市史を

市史は「通史編」「地域編」「資料編」の3つに分けて、おおむね令和10年度の刊行をめざしています。今年度は、資料の場所の調査や分析方法の検討などを行っています。

丹波篠山市は、大きな災害や戦火に遭つことが少なかったため、膨大な量の資料が残っています。これらの資料をどう分析して、何を市史に織り込んでいくかということが非常に難しいです。しかし、市史の発行頻度は少なく、次の発行は100年後かもしれない。だからこそ、今後100年は生き残った資料として活用できるものを作りたいと考えています。また、市史は歴史の教訓と次の時代に伝えるという役目も負っています。そのため、膨大な資料から、時間と費用を検討しながら、いかに網羅した構成にするかということを考えて取り組んでいます。

めざすのは市民第一の市史

市史編さんで目標とすることは市民の皆さんが、手に取って、見て、楽しめるような市史を作ることです。

市史というものは、学術書のよう難しいものになりがちですが、市民の方に手に取ってもらえないと意味がありません。そして、小学生や中学生が地元のことを調べたいとき、ひもとくための資料でありたいと思っています。

市民のためになる、市民の皆さんが気軽に手に取って読める、そんな市史をめざしています。

まだまだ資料を集めています

皆さんの家に、古い文献や資料がきつとまだ眠っています。それらは宝の山かもしれません。汚れていても、傷がついていても結構です。まず一度、市史編さん室にご相談ください。



丹波篠山市史編さん委員会 委員長 今井進さん

